



——【温州みかん】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょ。——

病害虫防除

7月下旬～8月中旬

○黒点病

ペンコゼブ水和剤又はジマンダイセン水和剤600倍 166g/水100㍓
収穫30日前 4回

○カイガラムシ類
チャノキイロアザミウマ

コルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100㍓ 収穫前日 3回

○ミカンハダニ
ミカンサビダニ
アザミウマ類

メビウスフロアブル（劇）3000倍 33ml/水100㍓ 収穫7日前 2回

8月下旬～9月上旬

○黒点病

ペンコゼブ水和剤又はジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓
収穫30日前 4回

○ミカンハダニ ミカンサビダニ

ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100㍓ 収穫前日 1回
又は

ダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100㍓ 収穫前日 1回

○チャノキイロアザミウマ
ヤノネカイガラムシ

エルサン乳剤（劇） 1,000倍 100ml/水100㍓ 収穫14日前 2回
又は スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫前日 3回
※チャノキイロアザミウマ多発園ではスタークル顆粒水溶剤を散布する。

品質向上対策

①熟期促進を目的に、フィガロン乳剤の散布

満開後90日と110日の2回 3,000倍 300㍓/10a

②被覆資材の利用 敷設は8月中、取り外しは収穫前に行う

着色向上を目的の場合は、樹冠下に敷く（部分被覆）

着色向上と増糖・除草を目的の場合には、園内全体に敷く（全面被覆）

【中晩柑】

はるみ・不知火は、初秋の乾燥で細根が枯死しやすいため、水分ストレスを受けやすく、小玉、高酸果の原因になります。敷わらマルチ、ナギナタガヤの草生栽培により梅雨明け後から秋にかけての土壌の過乾燥を防ぎましょ。著しく乾燥が続く場合は灌水も検討しましょ。また、1果当たり100葉を基準に早めの摘果をしましょ。

特にはるみは着果量が多いと樹勢の低下や枯死の原因になりますので、樹冠上部1/3から1/4は必ず全摘果をしましょ。

——【レモン】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょ。——

病害虫防除

8月下旬～9月上旬

○ミカンハダニ

ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100㍓ 収穫前日 1回

ミカンサビダニ

ダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100㍓ 収穫前日 1回

○かいよう病・黒点病

コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓
（薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する）

○かいよう病・黒点病

コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓
（薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する）

○かいよう病・黒点病

コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓
（薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する）

○ミカンハモグリガ

エクシレルSE 5,000倍 20ml/水100㍓ 収穫前日 3回

アザミウマ類

※毎年黒点病が多い園ではストロビードライフフロアブル3,000倍（収穫14日前）を散布しましょ。

【う め】

夏季剪定 8月中旬～9月中旬まで

縮間伐を行い周囲から光が当たるようにするとともに、立ち枝(覆う枝)の間引きで樹の内部まで光が入るようにして翌年の花芽の充実を図りましょう。8月中に終わると効果が高いです。

(小梅や樹勢が弱っている樹は、夏季剪定は控えめにしましょう。)

【キウイフルーツ】

夏季剪定終了後に発生した夏枝や、剪定した部分から出る新梢が巻きついた部分を取り除きます。結果枝の葉を充実させ、果実へ養分が行きやすくするために、新梢を伸ばさないようにしましょう。

※カメムシ発生時は、スタークル顆粒水溶剤2,000倍 50g/水100ℓを散布(収穫前日 3回)

乾燥防止対策

初期肥大の時期には土壌を乾燥させないようにしましょう(敷わら・灌水)

【お 茶】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

土づくり

8月中旬までに苦土石灰120kgと有機物をすきこみ30cmくらいの深さに行いましょう。

病害虫防除

8月上旬～中旬

○チャノミドリヒメヨコバイ ロディー乳剤(劇) 1,000倍 100ml/水100ℓ 摘採7日前 1回

チャノキイロアザミウマ

チャノホソガ

チャハマキ

チャノコカクモンハマキ

○炭疽病 オンリーワンフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ 摘採7日前 2回

8月中下旬

○カンザワハダニ ミルベノック乳剤 1,000倍 100ml/水100ℓ 摘採7日前 1回

整枝

一番茶以降、更新作業を行ってない園では、上旬をめどに整枝を行いましょう。

【水 稲】

水管理(高温障害の対応) **重要**

出穂後20日間の平均気温が26～27℃以上の高温で推移すると、高温障害粒(乳白粒・心白粒等)が多発し、品質が低下してしまいます。

出穂前15日、出穂後10日間は水を切らさないようにしましょう。

その後は、根の活力維持のため間断かん水に努めましょう。35℃以上の異常高温が予測される場合は、掛け流しかん水をするにより、圃場の気温が低下して被害を軽減することができます。

病害虫防除 8月上旬～中旬

○カメムシ類・ウンカ類 スタークル粒剤 3kg/10a 発生状況に注意しましょう。収穫7日前 3回

防雀網の設置 開花時に影響が無いように、出穂前に済ませましょう。

自然対策

豪雨の時 水口、水尻を閉め過剰な水路からの流入による倒伏を防ぎましょう。
泥水が入った場合には、すみやかに新鮮な水と入れ替えましょう。

強風の時 水口、水尻を閉め深水にして、風による倒伏を防ぎましょう。